生理で学校に行けなくなる女子学生の
教育環境改善事業
（ウガンダ共和国）

事業終了時インパクト調査
報告書

Prepared for

SORAK DEVELOPMENT AGENCY

VISIONARY LADY FOUNDATION

HOPE FOR THE FUTURE

GLOBAL BRIDGE NETWORK

Prepared by Ggombe Kasim Munyegera (PhD)

Mazima Research Consultancy (MRC) Rwanda

www.mazimaconsultancy.com

概要

SORAK は Happy Pad（生理用布ナプキン）の普及と共に「ウガンダにおける生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業」を 3 地域において実施し、月経時の衛生管理における課題の解決に取り組んできた。本事業は、Global Bridge Network の支援の下、ムベンデ県を拠点とする SORAK、パリサ県を拠点とする Visionary Lady Foundation (VLF)、そしてワキソ県（エンテベ市）を拠点とする Hope for the Future により 2019 年 4 月～12 月の間に実施された。本文書は、プロジェクトの活動の終了時評価の報告書である。プロジェクト活動の評価は 5 つの基準（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続可能性）に基づいて行う。また、活動報告書を基にしたレビュー、そして受益者（教員、生徒、地域の女性ボランティア）への現地調査という 2 つの方法を用いる。本評価によると直接受益者は以下の通りとなった。ムベンデ県の地域の女性ボランティア 40 名、エンテベ市キウルエ村のスラム地域の住民 42 名、ムベンデ県における中等学校 10 校の生徒 3,000 名強、教員 20 名、パリサ県における初等学校 2 校の生徒 580 名である。上述の直接受益者に加え、ムベンデ県にあるラジオ局（Hart FM）でのラジオトークショー10 回、スポットメッセージ（ラジオのコマーシャル）等を通じて、さらに多くの人々も間接的に受益した。

本事業におけるほぼ全ての活動は予定通りに遂行され、概して本事業は効果的であったといえる。また、各活動においても受益者（初等学校、中等学校の生徒、教員、地域の女性ボランティア）にとって適切であった。なぜなら、彼らは再利用可能な生理用の布ナプキンを作成する技術を身に付けることが出来、さらに月経時の衛生管理、性と生殖にまつわる知識等のトレーニングに加えて、生活の中で重要な様々なスキルを学ぶことが出来たからである。教員、生徒、地域の女性ボランティアによる月経時の衛生管理における知識や実践が向上したことにより、個人、学校、並びにコミュニティレベルにプロジェクトの効果がもたらされたことが評価により明らかになった。本プロジェクトは、布ナプキンの作成、月経時の衛生管理、性と生殖にまつわる健康（性教育）等を受益者自身で他の人々に継続して教えるという合理的な方法により持続可能であると考えている。さらにいくつかの学校では上記のトレーニングを日課として組み込むことになった。しかし、持続性の担保には課題がある。受益者の中には、材料の不足で布ナプキンの生産を継続できず、プロジェクトの遂行者に支援を求め続ける人もいる。この課題の解決のために、また助成期間が終了した後もプロジェクトを継続できるように、作成した布ナプキンを学校やコミュニティで販売することを促進している。

目　次

概要 i
1. 背景 1
2. 評価の目的 2
3. 評価方法と基準 2
3.1. 評価方法 **2**
3.1.1. 机上レビュー 2
3.1.2. データ収集 2
3.2. 評価基準 **3**
3.2.1. 妥当性 3
3.2.2. インパクト 3
3.2.3. 有効性 4
3.2.4. 効率性 4
3.2.5. 持続性 4
4. 調査結果 4
4.1. SORAK 生産の「**Happy Pad**」を地域に繋げ普及させるよう地域の女性ボランティア **40** 名を対象に布ナプキン作成トレーニングを実施 **5**
4.2. ラジオトークショー（**10** 回/毎月）とラジオ広告（**1,000** 回）による生理用布ナプキンの啓発 **5**
4.3.生理用布ナプキン作成の動画（**CD**）を制作し、ムベンデ県、パリサ県、ワキソ県（エンテベ市）における月経時の衛生管理の啓発にて活用 **6**
4.4.ワキソ県（エンデベ市）キウルウェ村のコミュニティを支援している **Hope For Future** と協力し、貧困地域の女性を対象に生理用布ナプキン作成のトレーニングを実施 **9**
4.5. ムベンデ県の中等学校 **10** 校の教員 **20** 名を対象に生理用布ナプキン作成トレーニング、**SORAK** 生産の「**Happy Pad**」の普及の促進 **10**
4.6. ムベンデ県の中等学校 **10** 校の教員 **20** 名を対象に月経時の衛生管理、ジェンダー啓発、性教育に関するトレーニングを実施 **10**
4.7. ムベンデ県の中等学校 **10** 校の生徒を対象にジェンダー啓発、性と生殖にかかわる権利を含む性教育を実施 **10**

4.8. パリサ県の初等学校 **2** 校の生徒（女子 **28** 名、男子 **12** 名）を対象に生理用布ナプキン作成のトレーニングを実施 **11**

4.9. パリサ県の初等学校 **2** 校で、ジェンダー啓発・性と生殖に関わる健康と権利を含む性教育を実施 **12**

5. 結論と提案 15

5.1. 結論 **15**

5.2. 提案 **15**

5.2.1. 地域の女性グループによる提案 15

5.2.2. 教員による提案 15

5.2.3. 女子生徒およびその他による提案 16

現地調査の様子 17

List of Tables

表 1: 地域と回答者のカテゴリーによる調査の回答者数..... 3
表 2: インパクト調査結果の概要..... 4
表 3: 活動 1 における結果の評価..... 6
表 4: 活動 2 における結果の評価..... 9
表 5: 中等学校 10 校によるトレーニング参加者数..... 11
表 6: 活動 3 における結果の評価..... 12

List of Figures

図 1: 地域の女性ボランティアによりさらなるトレーニングを実施した人数 7
図 2: 地域の女性グループによるプロジェクト実施の評価 8
図 3: 活動後に教員によるトレーニング受けた初等学校の生徒の人数（パリサ県）.....14
図 4: 事業実施後にトレーニングを実施した生徒の参加数（パリサ県） 14

1. 背景

安価な生理用品の入手や月経時の衛生管理に関する知識・情報が欠如していることは、女子や女性にとって重大な問題である。Period Mediaの調査によると、ウガンダの退学率は東アフリカの中で最も高く、その一因として農村部における女子学生の月経時の問題が挙げられる。通常、月経時の衛生管理ができないため生理中の女子生徒が毎月4日間ほど学校を休むと推定される。この問題は、女子生徒たちの二面的な問題を表している。第一に、手ごろで質の良い生理用品の入手が困難であること、そのため月経時は古い布や不衛生な代替品で即席に対処している。しかし、代替品がすぐに用意できるわけでなく、女子学生たちは生理中に漏れてしまい恥ずかしい思いをし、月経時に学校を休むことが多い。第二に仮に代替品があったとしても、多くの女子生徒が適切な月経時の衛生管理に関する情報が欠如しており、生理中の学校の欠席はもちろん、女子たちに更なる月経に関する問題を引き起こしている。女子学生のみならず、コミュニティの若い女性の多くが類似した問題、手ごろな価格の良質な生理用品の入手困難、並びに適切な月経時の衛生管理に関する知識・情報の欠如のいずれか、あるいは両方に直面している。

そのため、現地のパートナー団体であるSORAKはGlobal Bridge Network（GBN）の支援の下、Visionary Lady Foundation (VLF)、並びにHope for the Futureと共に、女子学生、青年期の女性、コミュニティの住民を対象に生理用布ナプキンの作成と月経時の衛生管理トレーニングを実施した。本プロジェクトは「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業」の一環として、ムベンデ県、パリサ県、ワキソ県（エンテベ市）における初等・中等学校の女子生徒、並びにコミュニティの女性に対する月経時の衛生管理の改善、性教育、ジェンダー啓発を促進することが今期の目標である。具体的には、以下の通り。

- ムベンデ県、パリサ県、ワキソ県（エンテベ市）において布ナプキンの利用者を広めること
- ワキソ県（エンテベ市）キウルエ村 の女性や女子生徒に布ナプキンの作成のスキルを身に付け女性のエンパワーすること
- 生徒や教員が月経時の衛生管理の知識と布ナプキンの作成のスキルを身に付けること

本事業はプロジェクト期間中（2019 年 4 月-12 月）に下記の活動を実施した；

- 活動 1_ SORAK が生産している「Happy Pad」を地域に繋げ普及させることを目的に、地域の女性ボランティア 40 名を対象に布ナプキン作成トレーニングを実施

- 活動 2_エンデベ市キウルウェ村のコミュニティを支援している Hope For Future と共に貧困地域の女性を対象に生理用布ナプキン作成のトレーニングを実施
- 活動 3_パリサ県の初等学校 2 校で生理用布ナプキン作成のトレーニングを実施
- 活動 4_パリサ県の初等学校 2 校で、ジェンダー啓発・性と生殖に関わる健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス・ライツ）を含む性教育を実施
- 活動 5_ラジオの出演と動画作成による月経時の衛生管理について意識の啓発を実施
- 活動 6_中等学校の教員に、生理用ナプキン作成、月経時の衛生管理、ジェンダー啓発、性教育に関するトレーニングを実施

2. 評価の目的

本書は、各活動が受益者に対してどの程度のインパクトを与えたか、並びにプロジェクト遂行者が適切にアプローチしたかを評価する事業の最終評価報告書である。各活動の妥当性 、インパクト 、有効性 、効率性 、持続性 の評価と同時に、資金の使い方が効果的であったか、遂行に関する課題の認識、今後の類似したプロジェクトの実施の参考ためにその解決の提案も行う。

3. 評価方法と基準

3.1. 評価方法

3.1.1. 机上レビュー

評価における第一のアプローチはSORAKのプロジェクト実施チームによる活動報告書を含む関連書類の机上レビューである。机上レビューはプロジェクトの背景についての情報、および実施した各活動と受益者数の詳細を提示するのに活用する。

3.1.2. データ収集

第二のアプローチは事業の受益者における調査である。地域の女性ボランティア、学校の教員、生徒（男女含む）から抜粋した受益者へのインタビューを行った。表1のように合計135名の回答を得た。地域住民19名（ムベンデ県13名、ワキソ県（エンテベ市）6名）、学校教員18名（ムベンデ県から3名、パリサ県から15名）、学校の男子生徒44名（ムベンデ県13名、パリサ県31名）、学校の女子生徒54名（ムベンデ県25名、パリサ県29名）

表 1: 地域と回答者のカテゴリーによる調査の回答者数

回答者のカテゴリー	地域			
	ムベンデ県 Mubende	ワキソ県（エンテベ市） Entebbe	パリサ県 Pallisa	小計
地域の女性ボランティア	13	6		19
学校教員	3		15	18
学校の男子生徒	13		31	44
学校の女子生徒	25		29	54
合計	**54**	**6**	**75**	**135名**

3.2. 評価基準

評価は活動毎に 5 つの基準（妥当性 、インパクト 、有効性 、効率性 、持続性 ）に基づいて評価する。

3.2.1. 妥当性

「妥当性」の基準は、SORAK が実施した各活動が、計画された通りに重要なニーズを満たしたかどうかを確認する。言い換えると、実施した活動が想定した受益者のニーズにどの程度合致しているかということである。

3.2.2. インパクト

「インパクト」の基準は、事業により受益者の生活様式に変化をもたらしたかを確認する。月経時の衛生管理の知識と実践をどの程度習得できたか、各活動は受益者に影響を与えたかどうかを評価する。

3.2.3. 有効性

「有効性」の基準は、事業により想定した目標に達成したかということである。これは当初の目標と実際の結果（意図せずに発生した結果を含む）を比較して判断する。

3.2.4. 効率性

「効率性」の基準は、費用対効果を確認する。各活動に割り当てた予算が適切であったか（分配が効率的であったか）を評価する。

3.2.5. 持続性

「持続性」の基準は、想定した受益者に対して短期的な利益だけでなく、長期的な利益をどの程度もたらしたかを確認する。事業の資金終了後にも継続しうる各活動の中期的、長期的な利益を保持できるかどうかを評価する。特に、今回の受益者が事業終了後の長期間、各活動で習得したスキルや知識を拡大し実践し続けることができる能力があるかを調査する。

4. 調査結果

本章では活動報告書の机上レビューと現地調査の二つの組み合わせにより評価をし、その結果を報告する。表2は調査結果の主な概要であり、各活動の調査結果の詳細は次の章にて報告する。

表 2:インパクト調査結果の概要

Variable	地域の女性ボランティア	学校教員	男子生徒	女子生徒
月経時の衛生管理の知識向上	11 名/13 人中 ムベンデ県 6 名/6 名中 ワキソ県	3 名　ムベンデ県 15 名　パリサ県	7 名/ 13 人中 ムベンデ県 27 名/31 人中 パリサ県	23 名/25 人中 ムベンデ県 26 名/29 人中 パリサ県
学校欠席の減少				23 名/25 人中 ムベンデ県 27 名/29 人中 パリサ県
プロジェクト実施後に受益者によるトレーニングの人数	女性ボランティア 13 名が他の 33 名をトレーニングした	教員 1 名は生徒 30 名にトレーニング実施 ムベンデ県 教員 15 名は生徒 1,3301 にトレーニング実施		

生理中に女子をからかう男子の減少			男子 13 名はからかうのは悪いことと認識 6 名はからかうのをやめた パリサ県	23 名/ 25 人中 ムベンデ県 25 名/29 名 パリサ県

4.1. SORAK 生産の「Happy Pad」を地域に繋げ普及させるよう地域の女性ボランティア 40 名を対象に布ナプキン作成トレーニングを実施

SORAK は近隣地域から女性ボランティア 40 名を選抜し、生理用布ナプキン作成トレーニングを計画した。そのうちの数名は、SORAK と共に布ナプキンの販売・供給を実施したいと希望していた女性の中から選出した。

SORAK の活動報告書によると、活動 1 は 2019 年 7 月 10 日にムベンデ県の Kasaana C/U 初等学校にて計画通り実施された。報告書によると、受益者 40 名（女性 39 名、男性 1 名）が布ナプキン作成に必要な材料の準備および採寸についてトレーニングを受けた。トレーニング中の参加者は実演が良く見えるように前に出て見るよう伝えられ、布ナプキン（Happy Pad）作成における工程の説明に加えて、どのように寸法し縫製するかについて実践を通して学んだ。

4.2. ラジオトークショー（10 回/毎月）とラジオ広告（1,000 回）による生理用布ナプキンの啓発

本活動は、本プロジェクトの紹介、そして使い捨てナプキンの代替品として、布ナプキンが安価で良い選択肢であることを一般的に広めること、また女子の教育の重要性を啓発することを目的とした。SORAKの報告書によると、2019年7月15日～9月18日の期間に、Heart FM ラジオ局にてトークショーを10回放送した。従って本目的（放送10回）は達成した。ラジオ番組で話したトピックの妥当性は、リスナーからの積極的な反応（毎時間、放送時間中に平均25回の電話の問合わせ）があったことで、ある程度は保障されたといえる。

4.3.生理用布ナプキン作成の動画（CD）を制作し、ムベンデ県、パリサ県、ワキソ県（エンテベ市）における月経時の衛生管理の啓発にて活用

合計 200 枚の CD を作成し、3 団体に共有された。月経時の衛生管理と布ナプキン作成方法について録画した CD は、各団体が活動するコミュニティに配給された。この活動では SORAK や他のスタッフが直接出向いてトレーニングを実施できない地域でも役立ち、またプロジェクト終了後にも CD により布ナプキン作成の技術が受け継がれ、さらに啓発することができる。

SORAK の Happy pad（布ナプキン）の作成方法を説明したビデオ動画は、2019 年 7 月 3~4 日に SORAK 事務所にて撮影された。活動報告書と活動を実施したスタッフのインタビューによると、SORAK が作成した CD のコピー200 枚は、パリサ県の VLF と、エンテベ市の Hope for the Future に共有され、さらにプロジェクトの対象地域の様々な受益者に配布された。布ナプキンの作成方法とその重要性について啓発するという目的は果たされた。

表 3: 活動 1 の結果の評価

妥当性	有効性	効率性	インパクト	持続性
4.1 SORAK 生産の「Happy Pad」を地域に繋げ普及させるよう地域の女性ボランティア 40 名を対象に布ナプキン作成トレーニングを実施				
トレーニングは、参加者にとって妥当であったと考えられる。なぜなら、とても重要で必要とされる月経時の衛生管理に関する知識や情報がトレーニング前には欠如していたが、その知識を得たためである。	本事業のトレーニングは、予定通り参加者 40 名に対して実施された。	参加者 40 名にグループトレーニングを実施したのは、おそらく最も適切な方法であったと思われる。このアプローチにより、多くの参加者に低コストでトレーニングを実施できた。	本活動は肯定的な結果が得られた。アンケートによると 13 名中 12 名がトレーニング実施後に月経時の衛生管理の実施が改善したと回答、13 名全員が自分の知識が向上したと回答。11 名は最低 1 名に自らトレーニングを実施し、そのうちの 1 名は 6 名にトレーニングしたと回答。（図 1）	次の 2 年間は布ナプキンの材料を購入し作成できると 13 名が回答したことにより、本活動の継続が期待できる。しかし、多くの回答者は事業実施側から材料の支給を望んでおり、この点においてはプロジェクトの継続における課題といえる。
4.2 ラジオトークショー（10 回/毎月）とラジオ広告（1,000 回）による生理用布ナプキンの啓発				
ラジオ番組の度に平均 25 名から電話の問合わせがあったことは、リスナーにとって大きな情報格差があったといえる。言い換えると、	本活動は、2019 年 7 月 15 日～9 月 18 日の間に Heart FM ラジオ局で月 1 のラジオ番組を計 10 回実施したという	多くのラジオのリスナーへ低コストでメッセージが届いたという点で費用対効果が高かったといえる。この	本活動が多くのリスナーに届いたことで効果的であった。13名中 11 名がラジオを聞いたと回答。加えて、ラジオ番組を聞いたリスナー	

問合わせの多さが、話題に関するリスナーの関心が高いことを示している。月経時の衛生管理に関する知識が欠如していたリスナーに興味や意欲を起こさせたと考えられる。	点で有効であったと考えられる。	ような啓発活動を代替的なメディアを用いて行うとより高額になりうるので、自分たちでトークショーを行ったのは効率的であったといえる。	11 名が月経時の衛生管理における知識と実践の向上に役立ったと回答。	
4.3 生理用布ナプキン作成の動画（CD）を制作し、月経時の衛生管理の啓発にて活用				
動画の視聴者に、自身の布ナプキンをどうやって作成するか、月経時のより正し衛生管理について、活動前には知らなかった情報を正しく伝えたことで、本活動は妥当であった。	布ナプキン作成の動画は、計画通り制作された。200 枚の CD を作り、活動地域の対象者に配布した。	予算が明示されていなかったため効率性は不明であるが、情報が CD として保存され、何度も見ることで自身の記憶に残り、長く継続できるという点で効率的であるといえる。	ビデオの受給者のインタビューができず、効果の調査が不可能であるが、事業実施者によると 200 枚すべて配布した。CD は情報共有に役立ち、受給者は何度も見ることで布ナプキンの作成法を今後も学ぶことができる。	

図 1: 地域の女性ボランティアによりさらなるトレーニングを実施した人数

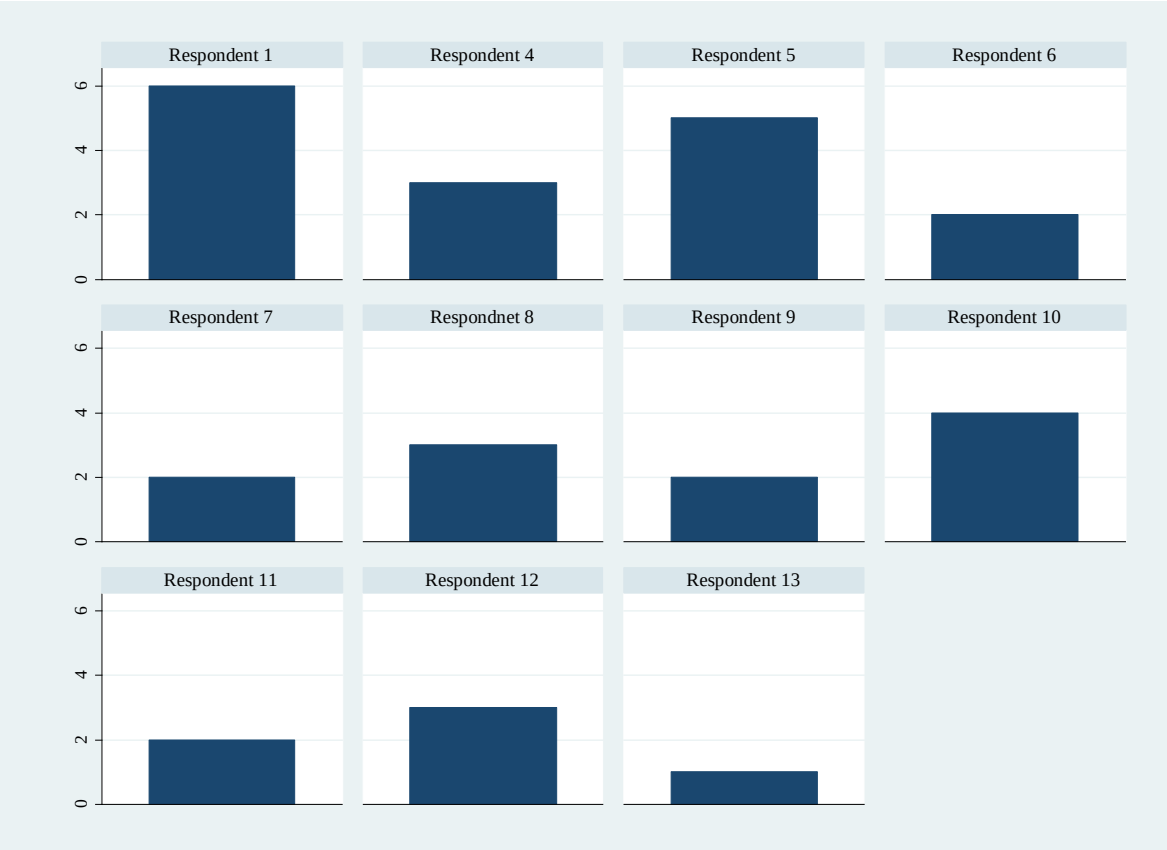
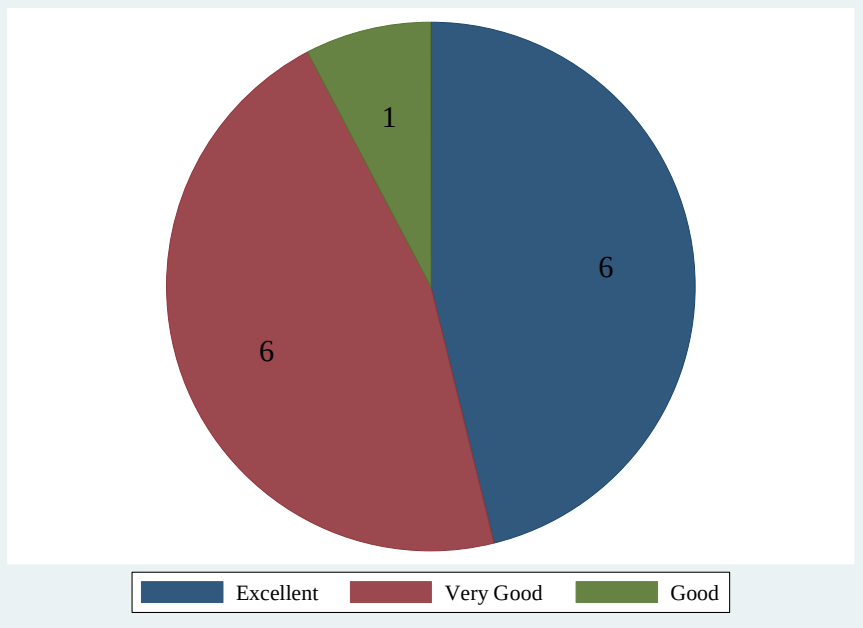


図 2: 地域の女性グループによるプロジェクト実施の評価



4.4.ワキソ県（エンデベ市）キウルウェ村のコミュニティを支援している Hope For Future と協力し、貧困地域の女性を対象に生理用布ナプキン作成のトレーニングを実施

SORAK は、Hope for the Future と共にエンテベ市の女性を対象に布ナプキン作成トレーニングを実施し、キウルウェ村のスラム住民の女性 60 名がトレーニングを受講した。参加者は、今後は自身の布ナプキンを作成することで、より月経時の健康管理のニーズを満たすことができると推奨された。

本活動は、GBN の支援のもと SORAK と Hope for the Future によりエンテベ市のキウルエ村の Kiwulwe C/U 初等学校にて実施した。トレーニングは、2019 年 8 月 20 日に実施され、提案書では60名が受講予定だったが、活動報告書によると49名の参加者を対象に実施された。しかし、活動報告書に添付された参加者リストには 42 名とあった。（退学した生徒 4 名、女子生徒 7 名、学歴等不明 31 名）

表 4: 活動 2 の結果の評価

妥当性	有効性	効率性	インパクト	持続性
月経時の衛生管理の知識と生理用ナプキンが不足している参加者にとってトレーニングの実施は妥当であった。 貧困地域の住民にそのような知識とスキルを提供することは、青年期の女性・女子たちのエンパワーにおいて重要なニーズであり、月経時の衛生管理の実施と共に学校退学率を減らす可能性がある。	本活動は、対象とする受益者として貧困女性にトレーニングを実施したため極めて有効であった。しかし、受益者数が予定された人数とは異なった。	活動予算が不明なので分析不可能である。しかし、相対的にみると、本活動の目的を達成するのに最も安価な方法で実践されたといえる。	インタビューを実施した女性 6 名すべてが、月経時における衛生管理の知識と実践が向上したと述べた。	本活動は参加者にライフスキルを提供し、そのスキルを長期にわたり保持することが可能である。しかし、参加者は事業実施者から材料を求め続ける可能性があり、その点において持続可能であるかが疑わしい。

4.5. ムベンデ県の中等学校 10 校の教員 20 名を対象に生理用布ナプキン作成トレーニング、SORAK 生産の「Happy Pad」の普及の促進

SORAKは中等学校の教員20名を対象に、布ナプキン作成の1日トレーニングを実施した。教員は学校に戻った後、自ら生徒を対象にトレーニングを実施し、Happy Padの使用と普及に努めることが期待された。

4.6. ムベンデ県の中等学校 10 校の教員 20 名を対象に月経時の衛生管理、ジェンダー啓発、性教育に関するトレーニングを実施

SORAKは中等学校10校から選出した教員20名を対象に、月経時の衛生管理・ジェンダー啓発・性と生殖に関わる健康を含む性教育のトレーニングする計画を立てた。繰り返しとなるが、教員はこのトピックと問題に取り組み、各々の学校にて生徒を対象に定期的にトレーニングを実施することが期待された。

4.7. ムベンデ県の中等学校 10 校の生徒を対象にジェンダー啓発、性と生殖にかかわる権利を含む性教育を実施

SORAKは、10日間で中等学校10校を訪問し、生徒を対象にジェンダー啓発と性教育、性と生殖に関する健康と権利に関する授業を実施した。トレーニングを受けた教員の支援の下、生徒が月経時の衛生管理に関する偏見に立ち向かい、安全な環境で学校に在籍できるようにすることを目的としている。

SORAKからの活動報告書によると、2019年11月8日～12月2日の実施期間に、予定通りにムベンデ県の中等学校10校にて上述の3つの活動を実施した。対象校10校は以下の通り。（Kigando 中等学校、 Bagezza中等学校、Clever Hill 中等学校、 Silver Steps 中等学校, Lusiba Progressive 中等学校, Mugungulu 中等学校, St. Marys 中等学校, Nabingoola Public 中等学校, Kabbo 中等学校 、Canan School of Beauty and Skilling）

活動報告書によれば、対象校10校より合計3,040名の生徒が参加した。男子生徒1,020名、女子生徒2,020名である。さらに、布ナプキン作成のトレーニングには教員20名が参加した。Agro Organic Gardens と Bagezza Seed 中等学校2か所にて開催された。各学校の参加者の人数と性別の詳細は以下の表5にて提示。

表 **5:** 中等学校 **10** 校によるトレーニング参加者数

場所	男性/その他	女性/その他	合計
Agro organic gardens	10	10	20
Bagezza Seed 中等学校	10	10	20
Kigando 中等学校	129	189	318
Bagezza 中等学校	136	394	530
Clever Hill 中等学校	42	88	130
Silver steps 中等学校	143	283	426
Lusiba progressive 中等学校	150	265	415
Mugungulu 中等学校	123	232	355
St. Marys 中等学校	20	36	56
Nabingoola Public 中等学校	82	124	206
Kabbo 中等学校	90	179	269
Canan school of beauty and skilling	85	210	295
合計	**1,020**	**2,020**	**3,040**

4.8. パリサ県の初等学校 2 校の生徒（女子 28 名、男子 12 名）を対象に生理用布ナプキン作成のトレーニングを実施

SORAK はVisionary Lady Foundation (VLF)と連携し、パリサ県の初等学校2校より選抜した生徒40名を対象に布ナプキン作成トレーニングを実施した。トレーニングに参加した生徒は、他の生徒たちにトレーニングができるよう、また、ウガンダの地元で手に入る材料を用いて自身で布ナプキンを作成するように奨励された。VLFから提供された活動報告書によると、2019年10月21日～22日にOdusai初等学校とOpadoi小学校にて開催した。

4.9. パリサ県の初等学校 2 校で、ジェンダー啓発・性と生殖に関わる健康と権利を含む性教育を実施

SORAK は、VLF と共にジェンダー啓発、性教育に関するトレーニングを実施した。本トレーニングは、選出された 2 校にて、10－17 歳の男子生徒と女子生徒の少なくとも 100 名の生徒を対象として実施した。

本活動は、2019 年 10 月 21～22 日、パリサ県に位置する Odusai 初等学校、Opadoi 初等学校にて実施された。VLF の活動報告書によると、ジェンダー啓発トレーニングに生徒 580 名（男子生徒 220 名、女子生徒 360 名）が参加した。そのうち、Odusai 初等学校の生徒 280 名（男子生徒 120 名、女子生徒 160 名）、Opadai 初等学校の生徒 300 名（男子生徒 100 名、女子生徒 200 名）である。本活動の参加者数は、予定していた 500 名を超えた。評価基準 5 つに基づいた評価は、下記の表 6 の通りである。

表 6: 活動 3 の結果の評価

妥当性	有効性	効率性	インパクト	持続性
4.5 ムベンデ県の中等学校 10 校の教員 20 名を対象に生理用布ナプキン作成トレーニング、SORAK 生産の「Happy Pad」の普及の促進				
4.6 ムベンデ県の中等学校 10 校の教員 20 名を対象に月経時の衛生管理、ジェンダー啓発、性教育に関するトレーニングを実施				
4.7 ムベンデ県の中等学校 10 校の生徒を対象にジェンダー啓発、性と生殖にかかわる権利を含む性教育を実施				
本活動は月経時の衛生管理の知識、布ナプキン作成方法、性と生殖に関する健康と権利、ジェンダーに基づく暴力等、重要なニーズに応え、また、月経時の衛生管理の問題による学校の中退者を減らす可能性があるため、本活動は非常に妥当であった。	本活動は、計画通り中等学校 10 校において、教員と生徒の両者に対して実施され、非常に有効であった。	短期間に 3,000 名を超える受益者に対して実施することが出来、実施は効率的であった。結果は本当に尽力に報いるものだった。	対象校の各 3 校からの教員 3 名を対象にインタビューしたところ、3 名とも月経時の衛生管理についての知識が向上したと回答。 教員 1 名は布ナプキン作成と性教育を生徒 30 名に実施したと回答。 インタビューを受けた女子生徒 25 名のうち 22 名（88%）が SORAK の Happy Pad を使用していると回答。 女子生徒 25 名中 23 名（95%）が学校の欠席が減少したと回答。 トレーニング実施後に、女子生徒 25 名中 23 名（95%）が、生理中に男子にからかわれることが減少したと回答。	インタビューを受けたムベンデ県の教員 3 名が引き続き性教育を実施している。 教員 1 名は月経時の衛生管理と性と生殖に関する健康について生徒 30 名を対象に実施した。 3 校のうち 2 校が月経時の衛生管理を学校の日課に組み入れた。

			男子生徒13名が生理中の女子をからかうべきではないことを理解したと回答。 女子生徒 25 名中 23 名（95%）がトレーニングにより自分たちの生活がより良く送れるようになったと回答。	1校は継続して布ナプキンの材料を提供している。
4.8 パリサ県の初等学校 2 校の生徒（女子 28 名、男子 12 名）を対象に生理用布ナプキン作成のトレーニングを実施				
4.9 パリサ県の初等学校 2 校で、ジェンダー啓発・性と生殖に関わる健康と権利を含む性教育を実施				
布ナプキン作成トレーニングは、学校の男子と女子生徒を対象に、再利用可能な布ナプキンをどうやって作るかという、トレーニング前には知らなかった実践的なスキルを身に着けた。 ジェンダー啓発トレーニングでは、生徒たちに様々なスキル（自分や他人と共存すること、月経時の衛生管理、意思決定、性と生殖に関する健康と権利、ジェンダーに基づく暴力等に関する知識）を身に付けさせることが出来たからである。 男子生徒をトレーニングに参加させたことで、生理中の女子生徒をからかってはいけないという問題に気付かせた。 以上の理由により非常に妥当であった。	ジェンダー啓発トレーニングは、予定していた 500 名を超える生徒がトレーニングを受けることが出来たため、非常に有効であった。	本トレーニングは、非常に効率的であった。なぜならこれほど多くの受益者（生徒 500 名）にいっぺんにトレーニングできたことで、一人にかかるコストは低くて済むからである。	インタビューに回答した教員15名すべてが、月経時の衛生管理の知識が向上し、また、生徒達においても、女子生徒の月経時の衛生管理の実践、男女の間のジェンダーの関係が改善したと回答。 事業実施後に、3 校の教員によって、合計 1,330 名の生徒達に布ナプキン作成と月経時の衛生管理についてトレーニングを実施。（図 4 参照） 29 名中 12 名の女子生徒が、以前は生理中に古着を使用していたが、トレーニング後は 6 名のみ引き続き古着を使用していると回答。 29 名中 27 名の女子生徒が、トレーニングのおかけで学校の欠席率が減ったと回答。 29 名中 26 名の女子生徒が、トレーニングのおかげで女性としての生活環境が改善したと回答。 31名中27名の男子生徒（87%）がトレーニングによって、月経に対する知識や対応が向上したと回答。 男子生徒 6 名が、トレーニングを受ける前は生理中の女子をからかっていたが、それは間違ったことだと気づいたのでからかうのをやめたと回答。.	本活動のトレーニングの受講者が生涯活用できるスキルを身に付けられ、持続可能である。 事業実施後に、教員が引き続き指導をし、延べ1,330名の生徒達がトレーニングを受けた。 3 校のうち 2 校が、生徒達に布ナプキン作成の材料を用意し、月経時の衛生管理の指導を学校の日課として取り入れた。 しかし、多くの生徒達から、事業実施側が今後も無料で布ナプキンの材料を提供してほしいとの要望が挙がった。

図 **3:** 事業実施後に教員によるトレーニング受けた初等学校の生徒の人数（パリサ県）

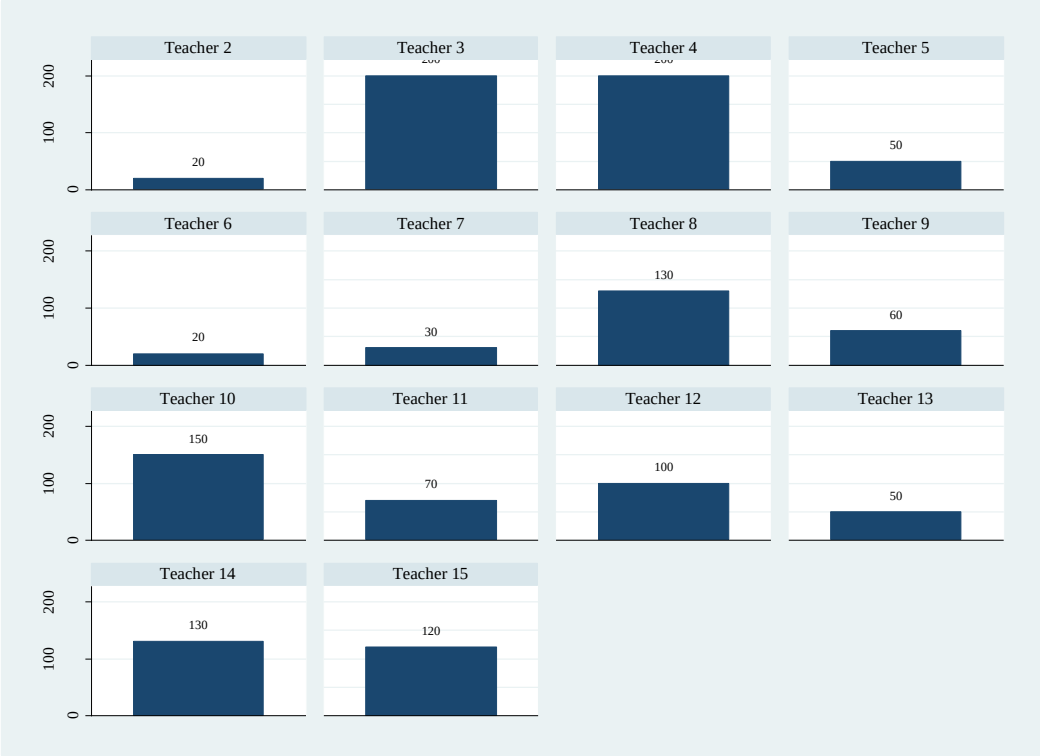
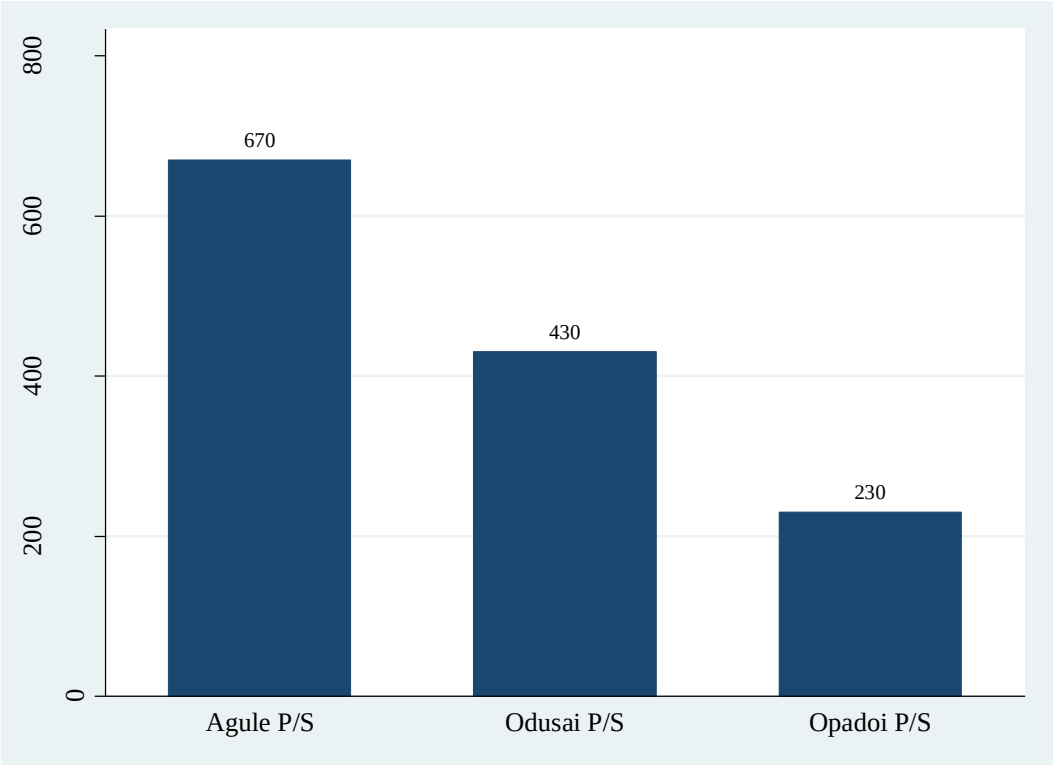


図 **4:** 事業実施後にトレーニングを実施した生徒の参加数（パリサ県）



5. 結論と提案

5.1. 結論

月経時の衛生管理と性と生殖に関する健康が向上することは、初等・中等学校の女子生徒、および若い女性にとって最重要なことである。そのような理由から、ムベンデ県、ワキソ県（エンテベ市）、パリサ県にて、SORAK、Hope for the future, Visionary Lady Foundation (VLF)により学校の女子生徒、男子生徒、教員、地域の女性ボランティアを対象にプロジェクト活動を実施した。トレーニングは生理用布ナプキンの作成法、性と生殖に関する健康を含む性教育やその他のスキルを習得するものである。本報告書は、各活動に対して 5 つの基準（妥当性 、インパクト 、有効性 、効率性 、持続性 ）に基づいて最終評価を提供している。評価方法としては、活動報告書による机上レビューとデータ収集である。今回の調査における総合評価は、月経時の衛生管理、性と生殖の健康と権利などの知識や実践が向上した点において、多くの受益者にプラスの影響を与えたことである。また、受益者が継続してさらに他の人々をトレーニング（伝授）している点でも、対象校で生徒達に布ナプキンを作成できるように材料を継続して購入し、学校の日課として月経時の衛生管理や性教育を取り入れたという点でも、本事業は持続可能であるといえる。

5.2. 提案

5.2.1. 地域の女性グループによる提案

- 布ナプキンを引き続き作成できるようミシンと材料を提供する。
- トレーニングの事業を地理的に広範囲において実施する。
- トレーニング期間を最低 3 日間にし、受講者を増やす。
- 女性グループを組織し、販売用の布ナプキン作成とマーケティングのスキルを提供する。
- さらに多くのトレーニングを提供する。
- 本事業をより多くの人々に啓発する。

5.2.2. 教員による提案

- より多くの生徒たちに布ナプキン作成、月経時の衛生管理、性と生殖の健康に関する健康を学ばせるように学校にファシリテータを送ってもらう。
- 学校で継続的に布ナプキンが作成できるようにミシンを提供する。

- 再利用可能な生理用布ナプキンを作れるように材料の質の向上。

5.2.3. 女子生徒およびその他による提案

- 月経時の衛生管理や性と生殖に関する健康についてのトレーニングがより多くの女子に届くように他の学校にも活動範囲を広げて実施する。
- 布ナプキン作成用の材料を提供する。
- トレーニングを受講できなかった生徒達に対しても、学校で購入できるよう布ナプキンを提供する。
- 月経に関する偏見を減らすようさらなる啓発や気づきを与える。
- 女子生徒や若い女性に再利用可能な布ナプキンの健康に関する利点について気付かせる。

現地調査の様子

ムベンデ県の女性ボランティアにインタビュー

Clevel Hill 中等学校の生徒にインタビュー

Clever 中等学校の生徒にインタビュー

Happy Land 中等学校の生徒にインタビュー

Bagezza S.S 中等学校の生徒にインタビュー

パリサ県の初等学校の教員にアンケート

パリサ県の初等学校の男子生徒にアンケート

パリサ県の初等学校の教員にアンケート

パリサ県の初等学校の男子生徒にアンケート

パリサ県の初等学校の教員にアンケート

パリサ県の初等学校の女子生徒にアンケート